

■高杉晋作 志士。家格が高く(松下村塾)の俊才で、奇兵隊組織し幕府軍を撃破したが、維新目前に病没。

たかすぎしんさく

蚕社の獄・1839= 長門国萩の菊屋横丁で、武田源氏の末流で毛利元就以来家臣の萩藩大組士高杉小忠太の長男に生まれる。

阿部正弘首座1845= 6歳 :

..... 1848= 9歳 : 痘瘡にかかる。

ペリー来航・1853=14歳 :

蕃書調所・1857=18歳 : *藩校(明倫館)の入舎生に選ばれたが飽きたらず、吉田松陰の松下村塾に入門するや、久坂玄瑞と双壁をうたわれ、松陰は久坂の“オ”に対し、高杉の“識”を高く評価した。

五ヶ国条約・1858=19歳 : 江戸に出、昌平黉に学に入学、

安政の大獄・1859=20歳 : 江戸から萩野山獄中の松陰に久坂と連名で書簡を送り、松陰の義挙計画を暴挙と戒める。

桜田門外変・1860=21歳 : 軍艦教授所に入学、また明倫館舎長、同都講を命じられた。この年、井上方(山口町奉行井上平右衛門次女)と結婚したが、以後死ぬまでの7年余は家庭生活とはほど遠く、馬関(下関)には愛妾おうのがいた。各地を歴訪、佐久間象山、横井小楠らと会っている。

遣欧使節・1861=22歳 : 藩世子毛利定広の小姓役となったが、

生麦事件・1862=23歳 : *藩命で上海に行き、列強資本主義に半植民地化されつつある中国の実情を見、また、その民族的抵抗に触れた。この体験が、帰国後のイギリス公使館(品川御殿山)焼打事件や身分にかかわらない有志による奇兵隊の創設の背後にあったとみてよい。奇兵隊創設時は、馬関総奉行手元役、政務座役、奇兵隊総監の役職につき、ついで奥番頭役になったが、

8月18日政変 1863=24歳 : *政変後の情勢下で脱藩。

禁門の変・1864=25歳 : *その罪により投獄されたが、四国連合艦隊の下関砲撃の危機を前にして免され、和議に臨んだりするも、第1次征長下に長州藩の実権は保守派に握られたため、馬関に挙兵、藩の主導権を奪い返し、

薩長同盟・1866=27歳 : *木戸孝允らと挙藩軍事体制をつくって第2次征長をめざす幕府と対決した。このとき海軍総督になって活躍したが、肺結核にかかり、

大政奉還・1867=28歳 : 馬関で没した。

死の枕頭で、親交のあった野村望東尼と“おもしろきこともなき世をおもしろくすみなすものは心なりけり”という合作の一首を残した。